

第13回 首都圏政策研究会 要旨
「江戸城天守を再建するー魅力ある国づくりのシンボルとして」

2012年10月25日

講師：認定NPO法人江戸城再建を目指す会
理事長 小竹直隆氏



① はじめにーなぜ江戸城再建か

a 江戸城再建について

江戸城再建とは、江戸城寛永度天守閣の再建を指す。江戸城寛永度天守閣は明暦の大火(1657年)で焼失したものであり、その後、350年あまり天守がない状況となっている。

また、皇居の東御苑の北の端に台座が残っており、その台座の上に天守閣を立てたい。そこで、誰が建設するのか、という問題が出てくるが、一民間団体である「認定NPO法人 江戸再建を目指す会」が新しい公共の担い手として先陣を切ることとなった。他方、政官財、全てが東御苑の台座に天守閣があるべきだとしている。

b 小竹直隆氏について

1957年、早稲田大学政治経済学部卒業

JTBに在職し、40年近く勤め、代表取締役専務からアメリカにわたる。その後、東京観光財団という第三セクターに民間からではあるものの初代事務理事として、都市東京を売り出すことになる。海外にわたり「東京に何があるのか？」と問われ、東京タワー、浅草寺くらいしか思い浮かばず、それだけでは海外は認めてくれない。ビジネスとしての大都市であるのはそうだが、歴史と伝統と文化を表すモニュメントがない、ことに気づき、現在の活動へと繋がる。そのような中、外国人から「どうしてここに、天守閣が経ってないのか？」と問われる。

(例) 世界五大都市のモニュメント

ロンドン＝バッキンガム宮殿

パリ：ベルサイユ

ニューヨーク：自由の女神

北京：紫禁城

東京：・・・？(スカイツリー??)

c どんな城だったのか？

一枚の残された「建地割図」という絵図が残されていた。広島大学の三浦正行氏にCGを作成してもらった。高さは、日本の城郭の中で一番高く、日本一壮大で美しい。全ての城郭建築のみならず日本文化の最高傑作の一つとされるべきものであった。

d なぜ、これまで再建されなかったのか？

老中筆頭の保科正之公と関係している。天守閣が焼け落ちた当時、加賀藩の前田公が一部修理をして徳川幕府に献上したが、江戸の町 50 万人の内 10 万人が亡くなったり、被災したりなど、多くの人が家もない、といった状況にあった。そんな中で、保科正之公は「天守閣を再建すべきか」という問いに対して、「万人が苦しんでいるそんな中で、再建をすべきか。やるべきは江戸の再開発である」として、ノーを突きつける。また、その後、幕末期には、再建しようとする動きがでたものの、資金不足といった問題のため、再建は叶わなかった。

補足

保科正之公の遺訓～これを代々の将軍が守る

「天守は遠くから観望するものであって、今は、再建をする声はあっても、今はその時に非ず」

e これからの日本と江戸城天守閣

現状を見ると、少子高齢化や人口減少、政治も経済も停滞しており、後世に伝える「国の形」が見えない状況となっている。

そんな中、日本再生に向けて、①この国の歴史と伝統、文化を見直そう②この国の、魅力ある「光」としての観光を育てよう！ということを大きなメッセージとして掲げ、単なる「箱もの」を作らないということを、江戸城天守閣の再建に込めている。

f 江戸城再建を行い達成する 3 つの目標

(a) 第一目標：日本の伝統と文化の再生

グローバリゼーションという荒波の中、日本らしさ・日本人のアイデンティティが失われていくのではないかと、という危機感を持っている。そんな中で、国民全体がムーブメントを起こせるような状況を再建によって、起こしたい。

また、いくつかの本から日本と日本人について紐解いてみる。それを基に、世界の人も誇る、世界に一つしかない文化・文明を私たちはもっと知るべきではないかと考えている。

i 「日本人は、日本を愛せないと言われる」「なぜなら、日本人は日本の歴史を忘れたからだ」(オランダ人 C.ウルフレン氏 外国人特派員会長)

ii 「世界 8 代文明など多くの文明は国境を越えて世界に広まっている。一方、一つの国で一つの文明を持つ国が一つだけある。それは日本だ」(S.ハンチントン)

iii 「日本は、素晴らしい」という江戸時代末期から明治にかけて来日した外国人の証言の数々 『逝きし日の面影』(渡辺京三)

iv 「日本人は大切なものをあまりにも早く捨て去ろうとしている」

『日本の開国』(E.ギメ 明治 9 年来日)

振り返るべき江戸時代

250 年ほど続いた中で、階級社会を色濃く残していったと色々問題あるが、政治体

制を確立。中央と地方を一つの国としてまとめ上げた、政治体制を確立させたのは凄い。階級社会ではありつつの、安定した社会秩序で、平和を維持してきた。経済・社会・文化の発展する事で貴族社会から一般の庶民な社会までも社会の層が広く深く一間っていった。また、江戸時代にほとんど生まれたとされる祭などの生活習慣で、現在も私たちは楽しんでいる。江戸時代の平和で豊かで、そして全国が参勤交代によって開かれていく国造りによって、大きな遺産が日本に残り、それがその後日本が世界の中で輝く国としたのだろう。

(b) 第二の目標：新しい魅力ある国づくり「観光立国」

ものづくり技術大国と並んで「観光立国」を目指したい。その一大シンボルとしての江戸城を再建したい。だが、日本では観光は一大産業とされていないのではないか。

もともと観光は易经により「国の光を見せる」という意味を持っている。つまり、観光は光輝く言葉であり、本当の意味が分かれば、観光という言葉を脇に追いやるといふ形ではなくなり、観光は国の中核となるはずである。訪れる人を魅了する「光」を作り、その国に住む人に誇りと喜びを生み育てることが出来る。

i 20世紀は武力、金力、21世紀は魅力の時代*

20世紀前半は武力の時代、後半は金力の時代、21世紀は魅力の時代である。まさに、魅力の時代とは光を見ることで、そこに人が寄せ付けられる魅力を作ることが新しい国造りに繋がる。

ii オンリーワンの日本*

世界の中でオンリーワンを持っているのは日本しかない。S.ハンチントンはベストワンを目指して、国が動いているというが、日本はそれに負けない宝物を持っている。だが、外国人旅行の誘致についてはメッセージが少ないため、その点では三流国であり、世界の中で順位は30位となっている。(2010年)また、不幸にして東日本大震災が発生し、それ以上に旅行者の人数を減らしている。日本は、トレンドとして世界の潮流から取り残されている。

iii 世界最大の産業としての観光*

観光は、アンブレラ産業と言われる。泊まる、食べる、見る、買う、遊ぶなどと経済波及効果が大きく、世界で観光は教育・医療と並ぶ最大の産業の一つとなっている。観光は世界最大の雇用創出効果を持つことは、世界では常識となっている。

(c) 第三の目標：共生と交流の場に

何と言っても、観光を促進するためには平和でなければならない。また江戸城は戦争の仕掛けも全くない「平和のシンボル」であり、そのような所に人を集められるのではないか。

g 観光立国するための三つの課題

(a) その1：平和な時代

平和であってこそその観光であり、平和を守るといえるのはどういうことなのか、を考えたい。

⇒現在は、魅力の時代。武力で世界を席卷するという時代が訪れるということとは考えられない。一方、尖閣諸島問題など、国益問題も絡んでくるが、それには真正面に向かって、国益とは何だ、ということを考えるべき。

(b) その2：皇居の東御苑という場所

このテーマがあるからこそ、難しい。皇居と隣り合っているため、宮内庁から管理されている。西の丸の御所は解放できないが、東御苑は一般公開されている。そこで、皇室の在り方について、あえて英国王室をもとに踏み込んでみる。英国王室は国民に近づこうとしている様子が分かるが、日本の皇室も、今回の東日本大震災を通して国民に近づこうとしている、と考えている。

また、今回のエリザベス女王の即位 60 周年記念式典を通して。バッキンガム宮殿の目の前の広間が、多くの人が集まり大イベントの広場となった。そのような光景が日本で見られてもよいのではないか。また、時には皇居の東御苑がどんちゃん騒ぎをしてもよいのではないか、という考えを持つことが出来たら、日本は変わっていくのではないかと考えている。他方、大広間・大奥、間をつなぐ松の廊下や城ミュージアムを作ってみることで、日本の伝統と文化のメッカにすべきである。

i アンタッチャブルなのか?! 宮内庁*

大手門での出会い。宮内庁の職員と出会い、東御苑の江戸城再建についてのチラシを渡し、「どう思うのか」と尋ねると、「これは素晴らしいですね」という返事をいただいた。アンタッチャブルではないのではないかとむしろ、私たちが勝手にアンタッチャブルだと思っているのではないかと。

(c) その3：NPOの可能性と限界

NPOだけで最後の築城まで出来るわけではない。しかし、新しい公共の担い手として民がメッセージを発するということが、時代の風となって吹き始める必要がある。

⇒現在、政官財の人を動かすための道を作っていると思っている。認定NPOとなり、会員も 3000 人になろうとしている。大変大きな反響もあり、NHK などにも取り上げられる。

その他

東京都議会において：2020 年には完成させることを発表、「オリンピックが駄目だったとしても、これはやりましょう」という前向きな方向性へ。

自民党の政策意見調査懇談会：「日本観光戦略の真ん中に据えてください」と主張し、

国会の中でこのテーマについて知らないという人はいない状況になっている。

IMF、世銀総会において：日本の最先端技術の代表として、法隆寺の五重塔、スカイツリーの模型とともに、江戸城の模型を置いてもらう。

ベルリン王宮再建：この動きと連携。

質疑応答

Q：建設費はどれ程予測されるのか？

A：精密な設計図が出されてないのと、公式な発表をしていないのだが、鉄筋であれば300から400億円、木造であれば400から500億円になると考えられる。

Q：そもそも、建設が可能なのか。（木材、石がき、技術力など）

A：木材：ヒノキだから、日本に育てられているヒノキで500年、1000年とたっている木材が国有林にあるようで、4,50本あれば可能はず。石がきについては大きな問題はない技術力は宮大工が250人ほど日本におり、日本中から馳せ参じてくれるのではないか。

Q：2020年のオリンピックまでと考えると、それまでの準備、タイムスケジュールについて。建設までにも4,5年かかりますよね。

A：まず、会員数を増やしていくことが必要で、一万人ほどにしたい。また、各界とのネットワークの構築も必要である。国会や政界とも繋がろうとしており、官公庁長官とお話し、課長級の方々とも電話しているが、特に、東京都が江戸城再建において、一番の芯柱となるはずである。今日は、その東京が大きく、動き出す日になるのではないかと松沢さんの前でお話させて頂くのは何かのご縁になるのでは・・・
(笑)

Q：天守閣が建設されて、上の階までに上がれないとすると、観光の魅力としてどうなのか。また、松の廊下でその不満を補強できるのか。

A：現在は、設計図を、詰めているわけではない。文化庁へ出願、地震に耐えられるかという点から国交庁、最後には宮内庁の了解を得られないといけないという様々な壁がある。そのような様々な壁が存在する中で、全ての外観・内容、またどこまでを一般観客に見せるのか、やメンテナンスなどをどういう形でやっていくかを詰めなければならない。また、「(元来) こういう城なんだ」、ということ抜きにして我々が勝手に設計することはできない。